社会福祉学研究科

臨床福祉学専攻 【博士後期課程】

臨床の科学をめざす

研究者としてのスキルは、博士論文の執筆によって磨かれます。そのために見極めるべきことのひとつはオリジナリティです。研究者あるいは実践者としての自分のなかにある切実な何か、表現ないし究明せずにはいられないテーマを、どんな順序で、どう絞り込み、どのような方法で探求するのか。研究の結果だけではなく、プロセスにもその人らしさは宿ります。博士後期課程の使命は、切実さの核であり、研究者や利用者の実存性をかたちづくっている感性や実感を、博士論文というかたちで結実させ、分かちあい、継承していくお手伝いをすることだと考えています。

論文作成の流れ

準備		1年次・2年次			3年次			
9月·2月		4月	5月	年2回	6月	8月	12月	2月
研究計画書作成（入試用）	面接（入試）	研究指導（指導教員）	研究計画書提出	研究交流会	草稿提出	草稿発表会·草稿審査	論文提出	公聴会·審査

これまで24名の博士（論文博士1名を含む）を輩出し、大学の教員あるいは施設の長として活躍しています。

特色ある取り組み

研究交流会

研究者には自律性が求められます。それは、他者の意見を聞かず、自分の主張を押し通すことではありません。面倒で複雑な（さまざまな立場からの、安易な妥協はしない）議論こそが研究者としてのスキルアップにつながると信じます。

本専攻では、ゼミの枠を越えて、年に2度、大学院生と教員による研究交流会を行っています。また、博士論文提出のまえに、草稿を発表する場を設け、論文をブラッシュアップする機会にしています。

修了要件

臨床福祉学専攻 博士後期課程修了要件は所定の授業科目20単位以上の履修が必要です。また、必要な指導を受けた上で博士論文の審査及び最終試験に合格することが必要です。

就職に関する情報

大学院修了者 業種別進路決定状況（2022年度）

臨床福祉学の研究者としてあらゆるフィールドで活躍

高度の専門的職業人の養成をその第一の課題とした博士前期課程に比較して、【博士後期課程】は福祉科学のひとつの実現形態としての「臨床福祉学」の研究者を養成することを第一義とします。ますます少子高齢化が進む日本社会において、総合科学としての福祉科学が重要度を増すことは明らかであり、この意義はきわめて大であると考えられます。そればかりでなく、学部·博士前期課程において「生活支援」に関する実践の具体性を習得した後に、【博士後期課程】に進学してさらに理論的に研究を深めるという事情を考慮すれば、幾年にもわたる期間に輩出される「臨床福祉学」研究者の量の拡大は、未来社会に多大な貢献を果たすものと確信されます。

福祉のあらゆる分野に活躍のフィールドが開けます。

- 社会福祉専攻の大学、短期大学、専門学校における教員
- 行政の企画調整分野·健康教育担当分野における職員
- 各種社会福祉施設等·地域福祉サービス機関管理者
- 精神科病院、大規模病院のソーシャルワーカー兼研究員·施設長
- 生命保険会社等の研究所の研究員
- ウェルビーイングの保証を標榜する民間企業の研究員（たとえば、住宅·家具·自動車·コンピュータなどのヒューマンインターフェイスを構築する企業）